

# NEWS LETTER 2010



## 会長挨拶

横浜市立大学後援会会長 馬場 彰

本年より後援会会長を務めさせていただきます馬場彰でございます。私自身も本学で学び、ファッション業界で働く機会を得て、早50余年が経過しました。こうした経済界での経験を活かし、微力ながら学生、保護者及び卒業生の皆さんとの橋渡し役として、わが母校横浜市立大学のため、お役に立つことができればと思っています。さて大学を取り巻く状況は、少子化による18歳人口の減少、全入時代の到来による大学間競争の激化に加え、昨今の海外経済の減速や株安による国内景気の不透明感、急激な円高基調などにより大学卒業生の就職状況は一層厳しいものとなっております。

こういう時代であるからこそ、自らの課題を見つけ探求する姿勢と様々な問題に対して解決する能力が備わった人材を育成することがますます重要であると考えます。私は、人生において、難しいことが起こった時、面倒くさいと思った時、これは面白いことが起こったと思うことについています。嫌だと思ったら前には進みません。面白いことが起こったと転換することにより、不思議と覚悟ができ、覚悟の中から勇気がで、知恵がでて、そして迫力となって外に現れてくると考えます。

大学は、単に学問知識の習得だけをする場所ではなく、広く様々な文化的・体育的ないし社会的活動を通じて知の形成とともに人間形成を図るべきところです。また、将来へのビジョンを持ち、自らの意思によって自主的に学び、積極的に自己開発に努めるべきところであると考えます。学生の皆さんのが、このような目的を効果的に達成することができるためには、大学をめぐる人的・物的環境の整備が必要であり、そのための経済的支援の充実・強化が不可欠であると考えられます。

後援会は、こうした視点に立ち大学と連携をしてまいりたいと考えております。会員の皆様には、後援会の運営について日頃より、多大のご支援とご協力を賜わっており深く感謝申し上げております。今後とも、後援会の充実発展のため、より建設的かつ有効なご意見・ご助言を賜りますとともににより一層のご協力とご後援のほど心よりお願い申し上げます。





後援会の馬場会長を始め会員の皆様には、本学に対して様々な手厚いご支援をいただきありがとうございます。心から御礼申し上げます。

横浜市は、昨年「開港150周年」の記念の年を迎えました。1854年の「日米和親条約による開港」と1858年の「日米修好通商条約」による「開港」は、我が国近代化の原点であるとともに、横浜市及び横浜市立大学の歴史的原点でもあります。本学は、横浜市を設置母体とする「公立大学」であり、「横浜市の社会インフラ」であることから、横浜市とともに過去から未来への歴史と共に歩み、市民の誇りとなり、人類社会に貢献する存在にならなければなりません。

現在、世界レベルで大掛かりな経済社会の構造的変化が起こっていますが、教育に責任を有する学長として一言申し上げれば、この「乱世」とも言えるこの社会変動の渦中にあっても堂々と生き抜く力を、学生諸君にはまずは養ってもらいたいと思っています。そのために用意されているのが、本学独自の「教養教育システム」であると言えます。この目的を達するため、私は、学生には日ごろから「勉強、研究、自己の確立」を強く求めています。

今後とも、引き続き本学に対するご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

## 市大の国際化

後援会常務理事（国際総合科学部長）

岡田 公夫



2010年4月から国際総合科学部の学部長をつとめています岡田です。6月の総会で通常に従い後援会の常務理事に選出されました。3月までは奨学金からサークル活動まで学生生活全般を職掌する副学長をつめていました関係上、学内の諸課題はおおよそ把握しているつもりでおります。また、横浜市大は大きな大学ではありませんので、大学院の3人の研究科長とも日常的に接点を持っております。学部生のみならず大学院生の支援についても気を配っていきたいと考えております。後援会と大学とをつなぐ仕事で成果を出せるよう努力いたしますので、ご支援、ご協力をどうかよろしくお願ひいたします。

さて、News letterの私の最初の話題として最近の市大の国際化にかかる状況をお伝えすることにしたいと思います。一部の新聞で報道されましたが、新学期が始まってまもなく、連携している米国国務省日本語研修所経由でルース駐日アメリカ大使と学生とのディスカッションの話が持ち込まれました。オバマ大統領になって任命されたルース駐日大使が日本の若い学生たちとインフォーマルに意見交換を

したいという申し入れです。単なる講演ではなく、ディスカッションという先方の要望に応えるべく、早速、米国大使館のホームページから早稲田大学で行われたルース大使の講演を入手し、これに対するコメントを求めて参加学生を公募しました。このまたとない機会に、もちろん初めてのことでもあり、上村先生（国際政治担当；国際化推進センター長）を中心に、McGary先生（Practical English Center Director）をルース大使に見立てての準備学習を行い、ディスカッションに臨みました。当日はあっと言う間に時間が過ぎ、ルース大使からは、将来は若いみんなにかかっているというエールをもらい、満足のいく成果を得ました。質問できなかった学生は次の機会でのリベンジを期して打ち解けたムードで記念写真に納まりました（詳しくは市大ホームページをご参照ください：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/topics/100513roundtable.html>）。

10月には、11月に横浜で開催されるAPEC首脳会議との関連で、ヌールAPEC事務局長を迎えてレクチャーとディスカッションを行いました（これはNHKの首都圏ニュースで放送されました）。企画にあたってはAPECでどれだけの学生が関心を持つだろうかという心配があったのですが、60人を超える応募があり、いちょうの館満員状態でAPECに関するレクチャーと質疑応答が行われました。今回も2回の準備学習を行いましたが、参加する学生たちはこうした機会に英語によるディスカッションの作法を着実に身につけています。

今年はこの他にも8月に、昨年市大が中心となって立ち上げた Academic Consortiumの国際シンポジウムをパシフィコ横浜で開催しました。アカデミック・コンソーシアムとは、アジア地域を中心とした都市にある大学をメンバーとしたネットワークで、都市の抱える課題の解決を通して持続可能な都市社会の実現を目指しています。賛同を得ているアジア地域のいくつかの大学を招いて、8月にシンポジウムと総会を開きました。シンポジウムでは昨年同様、市大の学生のプレゼンテーションも行われました（[http://www.yokohama-cu.ac.jp/int/academic\\_consoritium\\_houkoku.html](http://www.yokohama-cu.ac.jp/int/academic_consoritium_houkoku.html)）。彼らは日常的にインターネットを通じてインドの大学の学生とディスカッションを重ねています。

APECおよびアカデミック・コンソーシアム関連では、10月に世界銀行、JICA（国際協力機構）主催の国際会議（Eco<sup>2</sup> 2010 Yokohama）がパシフィコ横浜で開催され、その際に世界銀行アンダーセン副総裁とアカデミック・コンソーシアムを代表する市大の布施学長の間で、連携協力に関する覚書が締結されました。この会議では市大の青先生（環境政策論）のゼミの学生がプレゼンテーションを行い、次の時代を担う若い学生からのメッセージを発信しました（<http://www.yokohama-cu.ac.jp/int/20101022eco2.html>）。

時間が前後しますが、8月には今年で3回目となる「YCUサイエンスサマープログラム」が行われました。参加した市大生たちは「グローバルヘルスの実現に向けた生命医科学の開拓と挑戦」というテーマのもと、5ヶ国の海外協定大学からの学生たちとともに学び、交流を深めました（<http://www.yokohama-cu.ac.jp/int/ssp2010/>）。この他にもアメリカのバージニア大学が後援するSemester at Seaという、船で世界一周しながら学習するというプログラムでも、船が2日間横浜に停泊する機会を捉えて、市大の学生がホームステイプログラムや日本体験プログラムを提供して交流を図っています。

「国際化に関する話題」ということで報告いたしましたが、こうした活動が「国際化」などということではなく、横浜市大の日常として定着することを目指して活動を充実させていきたいと考えております。後援会の支援活動の報告として「海外ボランティア」「海外インターンシップ」「海外フィールドワーク」などの報告もあわせてお読みいただければと思います。この他にも、医学部の学生がブラジルの日系医師との協力のもとで現地日系人の健康診断活動に参加し、横浜港からブラジルへ渡られた日系の方々から、横浜から学生たちが来て活動しているということに対する大いなる感謝が寄せられたこともあわせてご報告したいと思います。

横浜市大の学生たちがより大きな可能性を手にできるよう、学生生活の充実にますます注力していきたいと考えております。

※市大の現在を伝える広報誌「whistle」のバックナンバーは市大ホームページでご覧いただけます（<http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/pr/whistle.html>）。

※今話題のハーバード大学「白熱教室」の日本版として横浜市大の上村雄彦先生の授業が登場します（NHK教育テレビ、11月21日（日）18時～、4週連続）。

# 後援会の助成事業紹介

## 1. 学生活動助成事業

浜大祭や医学部祭実行経費補助、関東甲信越体育大会・首都大学定期戦・東西戦等の大会参加補助、課外活動団体への活動補助金をはじめ通常経費で賄いきれない備品購入補助など豊かな学生生活のための助成事業を実施しています。

### ◆第60回浜大祭◆

今年の浜大祭は、「環」というテーマで開催されます。毎年お世話になっている方はもちろん、様々な方との出会いを大切にしていくことで、巨大な環を創り上げていきたいと思っています。11月にはAPEC横浜会議が開催されるのでうまく連携していくことで、浜大祭を通して横浜全体さらには世界にその熱が伝わるよう、実行委員一同工夫を凝らすために日々努力しております。

今年も浜大祭を無事に開催することができるは、横浜市立大学の関係者の皆様、後援会や進交会・同窓会の皆様、また、協賛・後援していただいた企業の皆様、そして地域のご支援・ご協力の賜物と心より感謝いたします。実行委員会を代表して心より御礼申し上げます。  
第60回浜大祭実行委員会委員長 田島 均



### ◆第59回関東甲信越大学体育大会◆

平成22年8月16日(月)～8月31日(火)に、関東甲信越地区の大学から約3,500名が参加する【第59回関東甲信越大学体育大会】が開催されました。本年は信州・松本で行われ、本学からは男女あわせて13団体が参加。日ごろの練習成果ができるよう全員で力を合わせて闘いました。

来年は宇都宮大学が主管校となって、北関東を中心に開催される予定です。これからもご指導・ご鞭撻の方をよろしくお願ひ致します。



### ◆第13回東西港湾都市大学総合競技大会◆

東西港湾都市大学総合競技大会（略名・東西戦）とは、横浜市立大学と兵庫県立大学の部活動同士が闘い合う、横浜市立大学にとって首都大戦、関甲信大会と並んで三大戦と称される大会の一つです。本大会は1995年阪神大震災発生時に本学運動部連合会が神戸商科大学（現・兵庫県立大学）に物資援助を行ったことをきっかけに、両学の友好関係をより一層深めるべく開催され、今年で13回目を迎えました。今年の東西戦では、各部活の努力のかいもあり、優勝杯をわが校に持ち帰ることができました。



### 課外活動



#### 硬式野球部

私たち横浜市大硬式野球部は、神奈川大学野球連盟に所属しており、現在二部において、昨秋リーグ戦二位、今春二位の成績を収めております。また、昨年の関東甲信越大会では準優勝という好成績を残しました。かつての名門も近年では、優勝から遠ざかっている現状ですが、古豪復活への確かな手ごたえを感じております。今年の関東甲信越大会は準優勝でしたが、秋季リーグ戦では、優勝できるよう日々精進していきたいと思います。

硬式野球部 主将 川島 優

## 水泳部

私たち水泳部は、初心者から経験者まで幅広い層の部員で構成されていて、それぞれの目標に向かって日々練習に取り組んでいます。その成果が発揮され、今シーズンは関東学生選手権で男子団体6位入賞や、全国国公立大学選手権へ8名出場、日本学生選手権へ2名出場など、上々の成績を残すことができました。この結果は部員の努力だけでなく、応援していただいた多くの皆様のお力がなければ得られなかつたものであると思っております。心より御礼申し上げます。また、今後とも私たち水泳部の活動を温かく見守っていただければと思います。

水泳部 主将 近藤 駿翼



## ローバークルー部

ローバークルー部は毎年、春夏秋冬と季節ごとに合宿を行っています。今年の夏合宿は北海道に10日間、ザックを背負って行きました。夜行バスからフェリーに乗り、北海道に上陸後、各グループごとに青春18切符やレンタカーを使って、函館から始まり小樽、札幌、帯広、十勝、旭川など様々な場所を訪れました。この他にもキャンプへ行く等、自然と触れ合い、部員の絆を深めています！

ローバークルー部 代表 伊藤 愛

## 科学研究会

科学研究会では、身近な“科学”を研究し見識を深め、自分が好きなテーマをまわりの子供達を中心に普及させ「“科学”好きを増やそう！」と活動しています。

7月3日の『鶴見キャンパス一般公開』では、今話題の宇宙ネタで真空実験、テレビ・ドラマ等ではお馴染みの液体窒素実験・ルミノール反応など「よく聞くけれど実際に触れたことがない科学」を一挙公開し、子供から大人まで“見て楽しい、触って楽しい実験室”を開催させていただきました。

科学研究会 代表 谷田 久美



## 演劇研究部(劇団海星館)

我々、演劇研究部は1年に4回から5回の公演を通じて活動しています。部室が稽古場と劇場を兼ねており、脚本の作成・演出指導から、舞台に必要な大道具、照明、音響、広告・チラシ・DM、メイク、衣装、劇場運営まですべてを部員自身で行っています。これらの活動から、最近では外部の劇団で活躍する役者・スタッフが出たり、今年度12月にはプロの演出家によるプロデュースの公演も予定しております。

劇団海星館 代表 平井 俊成



## 混声合唱団

混声合唱団です。私達は週三回サークルC棟の二階で練習しています！過去には2004年の“はこね学生音楽祭”で優秀賞をもらった実績もあります。ここ数年の主な活動としましては、毎年6月に五大学合同で開かれる“マリスステラコンサート”や、12月の定期演奏会というように、コンクールよりもコンサートに力を入れています！また他にも医学部主催の“感謝の集い”や福浦キャンパスの“医学祭”でも演奏しています。

混声合唱団 代表 鈴木 良優



## 2. 学習助成事業

ゼミ合宿等のゼミ活動にたいする補助、研究発表のための学会参加補助をはじめ、学術情報センターへの図書寄贈、新聞や英文雑誌の購入を実施のほか、より一層の教育効果を考え、一昨年より、研究室（ゼミ）単位での卒論集作成費の補助を始めています。

### ◆ゼミ活動補助◆

「計量合宿－藤野次雄研究会－」 国際総合科学部 国際経営コース 古田幸来

私達、藤野ゼミの2・3年生は毎年、夏季休業中に4泊5日のゼミ合宿に参加します。このゼミ合宿の趣旨は、プログラミングを用いて様々な分析を行うことにより、計量経済学を実践的に学んで理解することです。具体的には、3年生と2年生が「親子」というペアを組み、担当教員から与えられる課題に取り組んでいきます。課題は毎年同じプログラミングを用いるのですが、データは最新のものを用いて経済政策シミュレーションや、全国の金融機関の比較を様々な局面から行ったりします。3年生は「教える立場」として前年の学習内容を再確認し、効率の良い指導を検討することにより、前年とは違う視点で計量経済学を学ぶことができます。また、2年生は「教えられる立場」として、理論的な理解から実践的な理解を深めていくことができます。

この計量合宿では、計量経済学を学ぶことだけではなく、ゼミ生同士の関わりを深めていくことも、このゼミ合宿の目的です。「親子」というペアを組んで課題に取り組んでいくことにより、普段のゼミ活動では関わることの少ない上級生と下級生が互いに協力して、それまでになく交流を深めていくことができます。また、深夜から翌朝にまで及ぶ作業になるため、「親子」によって進行スピードが異なってきますが、早く終了したゼミ生が他のゼミ生を手助けして全員が必ず課題を終えています。

4泊5日のいう短い期間ではありますが、この合宿からゼミ生が得ることはたくさんあります。私達はこのようなゼミ活動によって、大学生活をより充実したものにできていると実感しています。



藤野次雄研究会 計量合宿 2010.09.09~14

### ◆図書寄贈◆

横浜市立大学後援会からは毎年多くのご支援をいただくことで、新しい資料が一層充実しております。2009年度には専門科目を学ぶ上での基盤となる教養教育を支援するための資料を中心に約450冊の図書と8種類の雑誌をご寄贈いただきました。『東アジアと地域経済 2009』や『数学からはじめる電磁気学』など、共通教養科目で広く活用される多分野にわたる資料のほか、充実した学生生活を支援するための「論理性を鍛えるレポートの書き方」や「広辞苑 第六版」、「英語教育用語辞典」といった、学生の日常学習に関わるこれらの寄贈資料は頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っております。



## 学術情報センターとは

「学術情報センター（図書館）」は、横浜市立大学の教育・研究並びに学習の支援にかかる情報サービス機能を総合的に備えた施設です。資料の収集だけでなく、学習・研究に役立つ様々なサービスの提供も行っております。

館内には約400席の閲覧席、複数名で利用可能なセミナー室、情報検索室等があり、様々な学習スタイルに応じた場を提供しています。平日は22時まで、土日も9時～19時まで開館しており、授業後や休日も十分な学習時間が取れるよう配慮しています。2009年度の入館者数は延べ15万人となっております。また、学生が情報検索やレポート作成に利用できるPCを備え、学生の学びを多方面からサポートしています。



蔵書は人文、社会、自然科学系図書を中心に63万冊あり、2009年度には約5万冊の資料が貸し出しされ、多くの学生に利用されています。

学術情報センターでは、これらの資料をより有効に利用していただけるよう、図書館の使い方や資料の探し方などのガイダンスを行なうほか、一人ひとりの学習・研究に沿ってアドバイスを行うレンタルサービス等を提供しています。

## 3. キャリア支援事業

在学中の語学検定をはじめとした資格取得受験料補助などキャリアサポート事業を実施しています。特に今年からは、高基準（英検1級取得者や、TOEIC860点以上取得、公認会計士など）の資格を取得した方には報奨金制度を設けました。また、大学を通して申し込みをする、公務員講座や、LEC資格ハンターなどのキャリアアップ外部講座受講生に対し少しでも受講しやすいように、補助金を出しています。

また、キャリア支援室開催の「合同企業セミナー」、「キャリアソーターと学生の集い」など就職サポート事業の補助を実施しています。

## ◆資格取得◆

私は資格助成制度を利用して、TOEICと日商簿記検定の資格を取得しました。助成制度の存在を知ったのは上記の資格取得後でしたが、受験費用の半額の助成と報奨金の存在は、資格取得への努力を評価して頂けるように感じられ、今後の勉強の大きな励みとなりました。

資格取得への勉強は単位取得や就職活動など短期的な目標のためだけでなく、今後の自分の力を高めてくれます。私の大学入学当時のTOEICの点数は555点でしたが、3年次には960点を取得すること出来、そのことが、海外インターンシップやボランティアへの挑戦、外国人の友人との交流を楽しめるようになったこと等、自分の世界を広げるきっかけになったと考えています。

この助成制度は、資格取得を目指すみなさんの背中を大きく押してくれる存在だと思うので、是非、活用出来るものは全て活用し、在学中に資格取得に挑戦してみて下さい。

最後に、稚拙ながら自らの経験を文章にさせて頂き、資格助成制度を設け学生を応援して下さる横浜市立大学後援会へ深い御礼を申し上げます。



## ◆合同企業セミナー◆

昨年度は11月10日から11月13日の4日間で参加企業140社、1,594名の学生が参加しました。会場

となった体育館では、企業の採用担当者の話を熱心に聴く学生や内定者として後輩の相談に乗る4年生の姿が印象的でした。今年は11月9日～12日の4日間で開催します。企業ブースでは熱心に説明を聴く学生の姿がみうけられました。

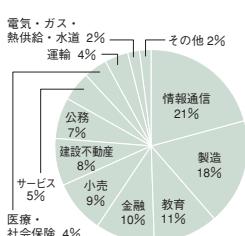
## ◆キャリアセンターと学生との集い◆

トの一環としてキャリアセンター制度を運営しています。現在、350名を超えるOB.OGが登録しており、年に一度、大学の教室を利用して集いを開催しています。昨年は10月23日に開催し、学生、キャリアセンター67名、学生116名が参加しました。今年も10月23日(土)に開催します。



## 学部卒業生の主な進路 (2010年5月現在)

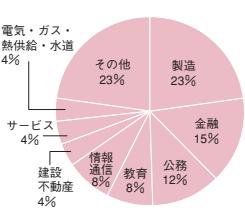
### ■国際教養学系 (人間科学コース、国際文化創造コース)



#### ●主な就職先

旭硝子株、株式会社銀行、イオンリテール株、梅乃宿酒造株、株エイチ・アイ・エス、株NTTファシリティーズ、株オーピック、神奈川中央交通株、株式会社同信社、株グローバルダイニング、社会福祉法人慶友会、株京急百貨店、株サイバー、コミニケーションズ、佐川急便株、株JT中部、株JTBパブリッシング、株静岡銀行、ショーウィンドー・アーツ株、鈴与商事株、横水ハウス株、株タカラトミー、チヤヤス株、中央出版株、株中国銀行、中部電力株、ほか

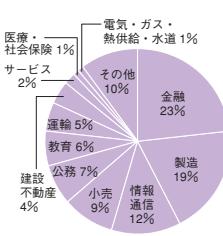
### ■理学系 (基盤科学コース、環境生命コース)



#### ●主な就職先

アサヒホールディングス株、アステラス製薬株、株安部日鋼工業、株NTTデータMSE、株関東つくば銀行、株STEP第一生命保険株、大和証券株、株電波新聞社、株ボノルディスクフアーマ株、株日立ハイシステム21、株日立グローバルストレージテクノロジーズ、みなどみらい二十一熱供給株、株りそなホールディングス、株和橋、和

### ■経営科学系 (政策経営コース、国際経営コース)



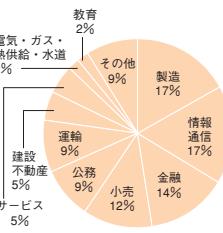
#### ●主な就職先

あいおい損害保険株、AIU保険会社、株IHI、株アシックス、伊藤忠テクノソリューションズ株、NTTコミュニケーションズ株、株NTTドコモ、キヤノン株、社共同通信社、株UFJニコス株、横浜信用金庫、東邦銀行、横浜銀行、三井住友銀行、横浜銀行、三井農林株、横浜八千代銀行、ヤマト運輸株、有限責任監査法人トマツ、株横浜銀行、横浜信用金庫、株リコー、株りそな銀行、YKK AP株、安城市役所、神奈川県、厚生労働省、渋谷区役所、逗子市役所、調べ市役所、横浜市役所、ほか

#### ●主な進学先

神戸大学経済学研究科、一橋大学（経済学研究科、商学研究科）、明治大学専門職大学院会計専門職研究科、横浜市立大学国際マネジメント科学研究科ほか

### ■融合領域 (ヨコハマ起業戦略コース)



#### ●主な就職先

株ITコア、株アイ・エンター、株アルファ・ウェーブ、インクリメントP株、株インテック、エーザイ株、株エクサ、株岡村製作所、株オリエンタルランド、ガルーダ、インドネシア航空会社、川重商事株、ギャップジャパン株、草野産業株、株クボタ、株ぐるなび、さがみ農業協同組合、株CSKホールディングス、株静岡銀行、住友生命

#### ●主な進学先

慶應義塾大学、明治大学会計専門職研究科、横浜市立大学都市社会文化研究科ほか

2010年3月卒業の大学生541,000人中、6人に1人が就職も進学もせず（87,000人、卒業者の16%）、昨年に比べ28%も増えました。このような状況は今年度も変わらず、むしろより深刻な状況になることも懸念されています。ご父母の皆様がかつて就職活動を経験した状況とは大きく異なり、ご心配なことと拝察いたします。

21年度国際総合科学部卒業者（旧学部を除く）の就職状況は96.9%で、全国大卒者の就職率91.8%を上回っております。これは、キャリア支援課のきめ細かい指導と、卒業生や内定を得た4年生による熱心な後輩指導など、先進的なサポートシステムの成果でもあります。

しかし、残念ですが、自分の将来を考えたことのない、支援困難な学生もあります。切符販売窓口で自分は何処に行けばよいかを聞くのと同じで、支援のしようがありません。3年になり慌てて目的地を考え始める学生も多いようですし、卒業まで決められない学生もいます。早くから自分を見つめ将来を考えていれば、キャリア支援課の支援が功を奏し、第1志望の企業、業種へ就職の可能性が高まるはずです。

就職は大学3年生までにどれだけ「自立した人物」に成長しているかで決まります。自立した人物とは、一言で言えば“自分がどのような人物で、社会人としてどう活躍したいか、そのためには学生時代には何をすべきか”が理解できている人物と言えましょう。

企業は以前のように成績優秀、素直でやる気がある将来性のありそうな人間を採用し、コストをかけ育成する余裕はありません。昨今の厳しい経済状況下、即戦力として活用でき、企業が支払う生涯賃金4~5億円に値する人物かを徹底的に見極めます。

よく、親として就活に際し何をしたら良いかとの質問をいただきますが、特別なことはありません。親が子供のすべきことに手を出さないこと、親子で将来を語り合うことの二点です。大学生のご両親に紹介するような話ではないのですが、多数の事例がありますので、ご父母の皆様と同世代の学務・教務センター 学習・教育担当と学生担当職員のメッセージを紹介させていただきます。

## 【学習・教育担当職員】

学生のご父母より電話をいただくことがあります。電話の内容は、お子さんの「安否」をご心配なさっての確認の電話です。「うちの子、ちゃんと授業に出ていますでしょうか。」「子供と連絡が取れないけど大学に来ているか確認をしていただけないか。」です。学習・教育担当としては、学生の中には心身不調などの原因で、自室に籠り大学に来ていない可能性があると判断し、科目担当の教員に授業の出席を確認したり、講義室に行って本人の出欠を確認したり、状況によっては学生の住居まで確認に行きます。多くの場合は、たまたま携帯電話が繋がらなかったという、単なる音信不通で胸を撫で下ろしているところです。

大学生にもなると面と向かってご父母とコミュニケーションを取ることが億劫になります。そこで、携帯メールで、ご父母から「しっかり勉強しているか」「(一人暮らしであれば)ちゃんと食事は取っているか」「将来のことは考えているか」などのメッセージを送っては如何でしょうか。返信メールは来ないかもしれません、学生は、携帯メールは必ず見ているようです。心の中で「おやじ、おふくろは、心配してくれているんだ」と感じるはずです。ただし、本当の気持ちが分かるのは、お子さんが、大学生の親になった時かもしれません…

## 【学生担当職員】

経済的に授業料を支払うことが著しく困難で、本学で定めた基準に該当する場合、授業料減免制度に申請することができ、適格者は審査を経て決定され、困窮度により、全額もしくは一部の授業料が減免されます。減免制度は、昨今の経済悪化により、年々、申請者が増加している状況で、保護者の皆様から、多くのお問い合わせをいただいております。

申請は、学生本人が行なうことを条件としておりますが、収入に関わる書類の用意や申請書の作成など、社会経験のない学生には分からないこともあります。よく「学生本人ではラチがあかないから」と、代理申請を望まれる保護者の方がいらっしゃいますが、学生本人の育成のためにも、本人にやらせてください。学生が、必要な情報をきちんと入手し、分からなければ本人が窓口まで聞きに来て、書類を完成させ提出期限を守る。大学としても、手を出すことを我慢して、根気強く指導しています。

日本学生支援機構の貸与型奨学生も、年々申し込みが増加し、現在は本学の4割近い学生が奨学生です。こちらも学生自身が自覚を持ち、奨学金を適切に活用できるということを前提とした制度であり、学生自身の申請を条件としています。どうぞ、ご家庭においてもご理解をお願いいたします。

このように、学生生活上の問題や諸手続についての疑問は、親ではなくお子さん自身が解決する、社会人として生きていくための疑問は自分で調べる、それが就活の入口であり、ジェネリックスキル（汎用的能力・社会人基礎力）育成の第一歩です。

日常生活のコミュニケーションはメールでも結構ですが、将来については会話を通しての声掛けが必要です。本人が未だ自分の性格や長所も短所も自覚していないければ、「お前は小さい時から〇〇だったね。〇〇については人より長けたものを持っていましたね。将来はどのような職業に就きたいと考えているの？」など、親が将来を決め付けずに、少し背中を押してください。友人と話し合うことも効果的で、友人同士で評価しあうことで、初めて自分を客観的に見るきっかけになることが多いようです。1年次から自分の将来を描き始めれば、大学の授業やボランティア、インターンシップなどの社会経験を通して、未来の自分や、社会で生きていくスキルとして何が必要か見えてくるはずです。

この秋、理系大学院生の就職力アップのため、後援会の助成を受けて、元新聞記者の大学講師による5回15時間の文章講座を試行しました。そこで明らかになったことは、将来を真剣に考えている学生達は上達が早く、アンケート回答でも全員が満足した一方、自己の将来を具体的に考えたことがない者は、最後まで読み手に訴える文章が書けず、そのような学生に限って教え方が悪い、もっと即効性のある指導が欲しいと要求ばかりで、結果ははっきりと二極に分かれました。まさしく、内定を得られるものは複数の内定を得、得られない者は1社も得られない事実と符合します。講師の先生は、そのような学生は、社会に出て一人前の人間となる事を自ら先送りしており（所謂モラトリアム人間）、学年だけが進行していくと心配していました。大学では苦手な教科や興味が無い科目をバイパスすることができても、社会で生きていくには回避できないことに早く気づく必要がありますので、ご父母の体験を基に仕事観、人生観などをお話ししてください。



理系は大学院に進学することで、就職は何とかなると安易に考えがちですが、文系と違い社会を意識する機会が少なく、読み手に自分への理解を得るために文を書く機会も無いため、特に注意が必要です。受講生の一人は、今夏インターンシップに応募するため多数のエントリーシートを書いたが、全ての企業に勧められ、改めて説得力のある文章の大切さを知り、この講座を受講したと語っていました。企業は、大学院生には学部学生より“大人”を求めます。

就活の早期化が社会問題となっていますが、3年次までの成長度で評価されます。大量のエントリーシートの中から先を読みたくさせ、実体験に裏打ちされ面接したくなる文章力、面接時に自分の体験を基に自分の言葉で何故この企業を志望しているか、面接者と会話が成り立つコミュニケーション力などが求められ、マニュアル本のハウツー的な付け焼刃では歯が立ちません。運良く面接まで進んでも相手は面接のプロです。企業の将来を託せる人物かを厳しく見極めます。

それに耐えるためには、人間力と視野を広げさせる様々な社会活動や、グローバルな視野を養う海外ボランティア、インターンシップなど、自らが体得した経験と、それにより何を得、企業でどう活かしていくか説明できる表現力の涵養が大事です。

7.5.3現象と言う言葉を聞かれた方も多いと思います。やっと就職しても3年以内に離職する中卒、高卒、大卒の割合を示したもので、大卒は実際には4割に近い数字が出ています。自分がイメージしていた企業や仕事の内容と現実のギャップ、適性に対する疑問、想像以上の激務、給与に対する不満、対人関係の悩み、勤務企業の将来性への不安など理由は様々ですが、就活時に自己分析と志望企業の研究を十分していれば避けられることも多いはずです。明確な目標と、それを裏付けるスキルを持たない転職は、良い結果を得られません。

後援会ではキャリアアップに繋がる海外留学、ボランティア、インターンシップ等の社会体験、多数の資格取得への補助など、様々な支援事業を行っています。これ等の助成制度を積極的に活用し、将来へ道を拓く、実りの多い学生生活を送られるよう祈念いたします。

## 4. 海外研修支援事業

「海外フィールドワーク」参加の学生への渡航費の一部補助、ウィーン大学交換留学をはじめカリフォルニア大学夏期講座、オックスフォード大学ブルックス校への短期語学研修などの「海外留学・語学研修」や「海外インターンシップ」・「海外ボランティア」への参加学生への渡航費の一部補助を実施しています。今年からは、国際学会で研究発表を行う院生（学生）に対する渡航費の助成を始めました。

### ◆海外フィールドワーク報告◆

国際総合科学部 国際文化創造コース 4年 吉沢 美咲

9月11日から18日まで海外FWとして韓国へ行きました。FWではゼミの仲間とともに、世界遺産である華城や景福宮、民俗村、三・一運動縁の地、四月革命の記念館、ソウルの植民地時代の日本人集住地（明洞、乙支路と南山一帯）や仁川上陸作戦の地などを訪れ、朝鮮王朝時代から植民地時代、朝鮮戦争、そして現代の韓国に至るまでの歴史や韓国の文化を今まで以上に学ぶことができました。また仁川大学の学生との交流会では、拙い韓国語を使いながらも楽しく会話することができ、とても素敵な時間を過ごすことができました。

1週間で様々な場所に足を運びましたが、その中でも特に印象に残っている場所は北朝鮮との国境付近にある非武装地帯と板門店です。テレビや本で何度も目にし、耳にしてきた場所ではあったのですが、地雷注意の看板や厳重な警備態勢、厳しい規則（撮影禁止や指さし禁止など）を目の当たりにすると「戦争はまだ続いている」ということが感じられました。今まで“戦争”や“対立”というものに実際に触れることになった私にとっては、そこにいるだけで恐怖を感じるほどでした。また板門店近くの都羅展望台から非武装地帯に生い茂る自然とその向こう側の北朝鮮を見ていると“近くで遠い”という言葉の意味がわかる気がしました。非武装地帯、板門店を訪れて、朝鮮戦争について考え直すとともに離散家族についてももっと勉強してみたいと思いました。

韓国については文献やビデオで何度も勉強してきたが、非武装地帯のよう実際に自分の目で見て、肌で感じなければわからないことが沢山ありました。4年生という最後の年に韓国へ行ったことを本当に嬉しく思います。このFWを通して経験したこと、学んだことを今後の研究にも生かしていきたいです。



（現代韓国・朝鮮社会ゼミ）

### ◆海外留学・語学研修◆

#### 「カリフォルニア大学」

国際総合科学部 人間科学コース 3年 中村 美菜

私は2010年8月2日から約5週間、UCSD夏期講座に参加しました。私は、過去2回UCSDでの語学研修の経験があるのですが、今回このプログラムに参加した理由は、語学研修を越えてアメリカでの大学の授業を体験し、自身の知識を深めたいと思ったからです。

私が聴講した授業は、国際関係学であり、世界経済から環境問題、紛争問題など、世界の諸問題の理解とその解決法を学ぶものでした。留学生は私一人という状況で、授業についていくことで精一杯になりながらも、授業内容は非常に興味深く、予習、復習に力を注ぐことで、授業の理解とともに、リーディング、リスニング力も向上したのではと感じています。

寮での生活においては、日本留学の経験があるルームメイトと毎晩のように映画を見たり、日本、アメリカでの文化や流行について語り合ったりしていました。私が聞き取れなくなると日本語で話してくれたのでコミュニケーションは容易でしたが、自分の英語の乏しさに悔しさを感じたりもしました。また彼女を通して多くの学生と友達になり、彼らと動物園などに外出することもありました。彼らとの会話の中で、アメリカ人学生と日本人学生の学習への意欲、価値観の違いなどを学ぶことができました。

今回のプログラムでは、多くの新たな出会いとともに、今までの留学でお世話になったホストファミリーや友達とも再会することができました。留学生である私を気さくに受け入れてくれる人々との会話の中でも、日本とは違う文化を学びとることができました。勉強や語学の面での厳しさにも多々直面しましたが、それらを含めてUCSDでの出来事1つ1つが、私にとってかけがえのない思い出であり、国際交流の大切さや楽しさを実感することができました。今回の留学により、英語学習への意欲をますます高めることができ、この貴重な体験を支えてくださった横浜市立大学後援会の皆様を始め、多くの方々に、心から感謝いたします。

私はオックスフォード・ブルックス大学のサマープログラムに参加し、忘れることのできない貴重な時間を過ごすことができました。



## 「オックスフォード大学ブルックス校」

国際総合科学部 1年 林崎 海夏

現地では、平日は毎日ネイティブの先生方の授業を受け、週末は観光地を巡るというような生活を送っていました。イギリスに行く前は英語を話すことに自信がなく3週間やっていくことができるか不安でしたが、実際に行ってみて英語を使わなければならない状況に置かれると自然と積極的に英語を話す努力をしていたと思います。最初は正しい英語を使えなかったら恥ずかしいという思いがありましたが、間違えてしまうことは失敗ではなく、一番大事なのは相手に伝えようとする気持ちだということに気づかされました。

同プログラムには他大学の日本人はもちろん、他国からの学生も参加していました。一緒にご飯を食べたりお互いの国のことについて話したりする時間はとても有意義なものでした。そのなかで、母国語が違っても「英語」というツールがあれば努力次第でどんなコミュニケーションをとることも可能なのだとということをあらためて実感しました。

今回この語学研修に参加して何事にもチャレンジする姿勢の大切さを感じることができました。きっかけは英語にたくさん触れて力を伸ばしたいというものでしたが、結果的にもっと大きなものを得ることができたと思います。このすばらしい経験を今後の英語学習だけではなく、異文化理解や自分の人生の様々な場面で生かしていきたいです。

## ◆海外インターンシップ◆

国際総合科学部 ヨコハマ起業戦略コース 3年 遠山 竜吾

海外で働いてみたい。それだけが海外インターンシッププログラムへの参加動機でした。申込書を提出した時、まだ心のどこかで迷っている自分もいましたが、日本に帰国した今、あの時の判断の正しさを強く感じます。

インドでの経験は全てが刺激的でした。日本とは全く異なる生活環境、初めてする社会人としての仕事、また共に汗を流したインド人の方々など、例を挙げればきりがありません。その中で英語だけではなく、文化の違いを受け入れる心や外から見た日本の姿など、日本においては学べない大切な事柄をたくさん学ぶことが出来ました。

今後、どんどん国際化は進んでいくことでしょう。日本にいるからいい、英語ができないから無理。そんなことを言える時代は終わったと思います。学生は外に出るべきです。世界に出て、世界を知り、世界で活動して初めて一人前になれるものです。

僕はこの経験のおかげでその事に気づくことができました。このプログラムを手配、サポートしてくれたキャリア支援室の方々、ならびに後援会の方々に厚く御礼申し上げます。



## ◆海外ボランティア◆

国際総合科学部 1年 八木沢 真美

いよいよ大学生活が始まろうというころ、私は国際ボランティアの説明会に参加しました。大学に入学したからには、英語でコミュニケーションする機会を得て、自分の英語の能力を向上させたいと考えていた私にとって、このプロジェクトはとても魅力的でした。しかし同時に、海外に渡航した経験のない私には負担が大きいのではとも思っていました。また金銭面でも不安があったため、参加を断念しようと考えていました。しかし、後援会から国際ボランティアプロジェクト参加者への援助があると伺い、ドイツで学術的施設の改裝を行うというプロジェクトに参加することを決意しました。

気さくなメンバーたちと一緒に過ごした二週間は、とても充実していました。この夏の経験からはこれまでに感じたことの無い達成感を得ることができたと思っております。今後も積極的に後援会のお力を借りて、今までに経験したことのない様々な活動に参加し、経験を培って行きたいと考えます。



## 5. 研究活動振興支援事業

研究活動振興支援事業として、「特別講義開催補助」や横浜市立大学を会場として開催される学会に対し「学会開催補助」を実施しています。

平成22年度は既に『侵略の罪を中心に～国際刑事裁判所規程再検討会議に出席して～』・『「経済大国」日本への転回』の特別講義開催補助を実施いたしました。

また、「生活経済学会関東部会」への助成も予定しております。

## 6. 福利厚生事業

福利厚生事業としては、入学時に、式終了後の保護者説明会が昼食時にかかるため、入学のお祝いを兼ね後援会より簡単なお弁当をご用意しております。また卒業時には学位記授与後開催の卒業祝賀会に対し補助を実施しています。その他、受賞学生と学長との懇話会や、学長賞・学長奨励賞受賞の学生さんに対する副賞などの助成をしています。

### ◆横浜市立大学学長賞・学長奨励賞◆

横浜市立大学学長賞・学長奨励賞は課外活動を奨励するとともに、学術、芸術、社会活動及びスポーツ・文化活動などの分野において学生の範となる活躍をし、横浜市立大学の名誉を高め、学内の士気を高揚したものに対して贈られます。後援会からは副賞をお渡ししています。

平成21年の学長賞は18th International Mass Spectrometry ConferenceにおいてFourth Symposia Award Journal of Mass Spectrometry、2009年度静電気学会賞（増田賞）を受賞した関本奏子さん（国際総合科学研究科 博士後期課程ナノ科学専攻3年）。学長奨励賞は第21回加藤記念国際交流助成を受賞した伊藤陽子さん、第14回Hindgut clubにおいて奨励賞を受賞した海老澤昌史さん、第82回日本化学会大会において優秀プレゼンテーション賞を受賞した廣瀬智一さん、第9回国際テルペングルーヴー会議において優秀発表賞を受賞した下村昌也さん、平成21年度南関東大学軟式野球秋季1部リーグにおいて首位打者・3塁手でベストナインを獲得した嶋康希さん、第82回関東学生選手権水泳競技大会50M自由形で優勝した近藤駿翼さん、2009年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロング・ディスタンス競技部門MUFクラス4位に入賞した岩本拓巳さんら7名。2009年度東日本医学生総合体育大会において優勝した医学部女子バスケットボール部、第12回大学対抗英語ディベート全国大会において準優勝した英語部ESS岡本唯さん・室園啓太さん、ブラジルで巡回診療の支援（調査・分析）を行った太田幸秀さん・大竹慎二さん・竹蓋清高さん（医学部専門課程）ら3団体。



H22.3.15

### ◆授学生・成績優秀者等表彰式◆

平成22年8月10日(火)、八景キャンパス大会議室において、平成22年度伊藤雅俊奨学金奨学生ならびに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。本制度は、学業・人物ともに優秀な学部学生を表彰し、一層の努力を奨励すると共に、本学学生全体の勉学意欲高揚に繋がることを期待し、行っています。今年度は保護者の方や関係教員も多数出席し、受賞者の栄誉を称えました。後援会では、式場の盛り花や、懇話会席上の飲み物を用意しました。



H22.8.10

## 6月26日 後援会が開催されました

平成22年の総会は6月26日（土曜日）、八景キャンパスのカメリアホール（350席）で開催されました。会場には多数の保護者会員のほか、年会員となられた卒業生会員の皆様にご参加いただきました。平成21年度決算報告及び22年度事業計画・予算説明が行われ、昨年ご指摘のあった特別会計の教育設備資金による事業計画について大学担当者より詳しい説明がなされました。また役員人事では、会長、副会長をはじめとして常務理事、会計理事等大幅な交代が行われ、新旧会長の挨拶がございました。

質疑応答の中では、今後に向けて、就職支援活動をはじめとするキャリア支援の充実や、設備等のハード面だけに偏らないソフト面での支援を希望する等多くのご意見をいただきました。

総会終了後には、大学生協食堂で懇親会が開催されました。大学より学長、理事長、後援会の常務理事に就任された岡田学部長をはじめ各コース長など多くの教員の参加をいただき、保護者会員と教育指導に当たっている教員との有意義な交流の場ともなりました。また、キャリア支援（特に就職活動）等については、職員が個別にご質問に答えるコーナーで、熱心に質問される姿も見うけられました。卒業生会員におかれましても、今日の大学教育をご理解いただく一助となったことだと思います。



八景キャンパスカメリアホール

## 平成21年度決算 <H21.04.01～H22.03.31>

### 【一般会計】

収支計算書 H21年4月1日からH22年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
会 費 収 入 ( 1 )	42,675,000	42,675,000	0
会 費 収 入 ( 2 )	3,000,000	3,756,450	756,450
受 取 利 息 収 入		5,372	5,372
雑 収 入	850,000	708,749	△141,251
当 期 収 入 合 計 ( A )	46,525,000	47,145,571	620,571
繰 越 収 支 差 額	39,404,205	39,404,205	0
収 入 合 計 ( B )	85,929,205	86,549,776	620,571
【支出の部】			
学 生 活 動 助 成 費	18,000,000	18,039,045	39,045
学 習 助 成 費	2,200,000	3,457,678	1,257,678
キ ャ リ ア 支 援 費	2,800,000	2,329,428	△470,572
海 外 研 修 支 援 費	9,000,000	9,150,110	150,110
研 究 活 動 支 援 費	400,000	404,305	4,305
福 利 厚 生 費	2,700,000	2,281,440	△418,560
広 報 誌 等 印 刷 費	1,800,000	1,320,980	△479,020
会 議 費	700,000	590,195	△109,805
通 信 費	1,800,000	1,417,720	△382,280
事 務 局 費	2,000,000	1,654,811	△345,189
繰り出し金(教育設備)	5,000,000	5,000,000	0
繰り出し金(教育資金)	30,000,000	30,000,000	0
予 備 費	125,000		△125,000
当 期 支 出 合 計 ( C )	76,525,000	75,645,712	△879,288
当 期 収 支 合 計 ( A )-(C)	△3,000,000	△28,500,141	1,499,859
次 期 繰 越 収 支 差 額 ( B )-(C)	9,404,205	10,904,064	1,499,859

### 貸借対照表

平成22年3月31日現在 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【資産の部】			
流 動 資 產			
現 金 預 金	10,904,064		
流 動 資 產 合 計		10,904,064	
資 產 合 計		10,904,064	
【負債の部】			
流 動 負 債			
【正味財産の部】			
正 味 財 產		10,904,064	
(うち当期正味財産減少額)		(28,500,141)	
負債及び正味財産合計		10,904,064	

### 監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条(6)の規定により、平成21年度事業報告並びに決算書類を監査した。その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成22年5月25日

監事:大村守一・小谷利子

\* (H22年6月26日より第8条(7)の規定になります)

## 会長、副会長をはじめ常務理事、会計理事など、役員が大幅に交代しました。

平成17年の公立大学法人への移行という大変重要な時期に、後援会の学生支援充実に向けて、会長として就任されました宇南山横浜市立大学名誉教授が勇退され、馬場前副会長が新会長として就任されました。

宇南山前会長にはおかげましては、会長在任5年の間に、会員の幅を広げるため、従来の保護者の皆さんに限ることなくご卒業生・教職員からもご支援いただけるように「会則を改正」し、多くの会員がご参加いただけるよう「総会を土曜日に開催」するとともに、年1回の総会では十分なご報告ができる後援会活動をご理解いただく為に「広報誌を発行」するなど、多くの改革を行われ、現在の後援会の基礎を築かれました。今後は馬場新会長のもと後援会がさらに学生のために有意義な存在となるよう努力してまいる所存です。

なお、昨年副会長に就任いただきました、足立光生様におかれましては、今年4月20日に交通事故のためご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

### 【教育設備資金特別会計】

収支計算書 H21年4月1日からH22年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	65,000	60,403	△4,597
繰 入 金 収 入 (A)	5,000,000	5,000,000	0
当 期 収 入 合 計 (C)	5,065,000	5,060,403	△4,597
繰 越 収 支 差 額	30,200,786	30,200,786	0
収 入 合 計 (B)	35,265,786	35,261,189	△4,597
【支出の部】			
当 期 支 出 合 計 (C)	0	0	0
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	5,065,000	5,060,403	△4,597
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	35,265,786	35,261,189	△4,597

### 貸借対照表

平成22年3月31日現在 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【資産の部】			
流 動 資 產			
現 金 預 金	35,261,189		
流 動 資 產 合 計		35,261,189	
資 產 合 計		35,261,189	
【負債の部】			
流 動 負 債			
【正味財産の部】			
正 味 財 產		35,261,189	
(うち当期正味財産増加額)		(5,060,403)	
負債及び正味財産合計		35,261,189	

### 【教育資金特別会計】

収支計算書 H21年4月1日からH22年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
繰 入 金 収 入	30,000,000	30,000,000	0
当 期 収 入 合 計 (A)	30,000,000	30,000,000	0
繰 越 収 支 差 額	0	0	0
収 入 合 計 (B)	30,000,000	30,000,000	0
【支出の部】			
当 期 支 出 合 計 (C)	0	0	0
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	30,000,000	30,000,000	0
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	30,000,000	30,000,000	0

### 貸借対照表

平成22年3月31日現在 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【資産の部】			
流 動 資 產			
現 金 預 金	30,000,000		
流 動 資 產 合 計		30,000,000	
資 產 合 計		30,000,000	
【負債の部】			
流 動 負 債			
【正味財産の部】			
正 味 財 產		30,000,000	
(うち当期正味財産増加額)		(30,000,000)	
負債及び正味財産合計		30,000,000	

## 公立大学法人横浜市立大学後援会会則

### (名 称)

第1条 本会は公立大学法人横浜市立大学後援会と称する。

### (目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

### (会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理事 30名以内
- (6) 幹事 5名以内
- (7) 監事 2名以内
- (8) 顧問 若干名

### (役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員の中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く。

2. 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

### (会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合には議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めたとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合には議長が決定する。

### (会 計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費は、次のとおりとする。なお、既納の会費は返還しない。

#### (1) 1号会員

学部においては学生1人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)  
大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生1人につき、30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあっては20,000円とする)

(2) 2号会員 年会費3,000円以上(1口1,000円、3口以上)

(3) 3号会員 年会費5,000円以上

2. 会員のうち前項1号の者は、学生(院生)の入学時に会費を納めるものとし、2号及び3号の者は毎年、年度内に納めるものとする。

3. 2号会員並びに3号会員が、前項の定める会費を年度内に納めない時は、その資格を失う。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

### 附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

### 附則

#### (施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

#### (施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

## 事務局より

News Letter 2010は、会員の皆様に学生の課外活動やゼミ活動をはじめとした、大学生活の様子をできるだけ学生の声を通してお伝えすることとし、紙面の充実を図りました。

会員の皆さんにおかれましては、横浜市立大学生の有意義な学生生活支援の為、今後とも変わらぬご協力をいたただきたくお願い申し上げます。また、ご卒業生、教職員、旧教職員の方々におかれましては、年会員として、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

\*ただ今、ホームページを作成中です。

## 公立大学法人横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027横浜市金沢区瀬戸22-2横浜市立大学内  
TEL:045(787)2396 e-mail:kouenkai@yokohama-cu.ac.jp